

(まとめ)

青山学院大学と体育会OB連合会は、今年度より2020年東京五輪を機会と捉え、文武両道を一段高めるべく活動を強化中

大学側は三木学長をはじめ、駅伝原晋氏を情報社会学部特任研究員としてスポーツ庁主導の改革ワーキングに参加させており、体育会各部、そして、OB総数が急拡大する青学ラグロス部OB・OG会にも意識を高めるように求めている、と感じずにはいられない (OB会長 温湯)

【17年度 大学・体育会OB連合会 強化活動】

- ・第4回 AGUコーチズセッション 原晋氏 講演メッセージ (11/9)
(まとめ)
2020年東京五輪をきっかけに大学スポーツ・青山学院体育会を前進させたい。
チーム成功には近道はなく「**規律正しい生活**」といった地道に規律定着を行い、
目標達成(ビジョン)のため**自ら課題解決**していく力を重視した**人材育成**が大切
- ・青山学院 平成29年度スポーツ庁委託事業(**日本版NCAA創設事業**)に採択(9/23)
<http://www.aoyama.ac.jp/info/news/2017/02329/>
- ・スポーツ庁 「**大学スポーツ振興推進事業**」につき青山学院大学ほか**8大学**選定(9/14)
http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/houdou/29/09/1395745.htm
- ・第3回 AGUコーチズセッション 学生生活部スポーツ支援課 立ち上げ (7/4)
(まとめ)
'16/10月発足、全4名。AGUの文武両道をも高めるべく三木学長の後押しで組織化。
スポーツ庁や2020年オリパラへの貢献を見据え、組織化の目的をスポーツ振興よりも
強化指定部を軸に**学生支援**を重視し立ち上げ

【原晋監督・特任研究員 OB観】

- 2017年11月9日 講演より

「先生が手塩にかけ育てたOB達は、どのように現役チーム作りに貢献すべきでしょうか」

という問いに対し

「OB達には後悔しない人生を送ってほしい。そして、人間的に成長し続け、社会人として出世してほしい。ルールを作る側に回って、日本を元気に良くしてほしい」

それが原先生のOB観

共有)11/9木 第4回 AGUコーチズセッション 結果 (ラクロス部OB会長 温湯)

幹事会 各位

取り急ぎ、昨日、青山キャンパス17号館6Fで開催された
AGU社会情報学部 原晋特別研究員(50歳 陸上部駅伝監督)の講演結果を共有いたします。

参加者は約100名程度だったでしょうか。
原先生が普段考えていることが良く分かり、あっという間の80分でした。

【講演内容】

大学スポーツ振興は公共的役割を担う可能性が高いため、スポーツの社会的効用を
学問として捉える動きを加速させたい。20年東京五輪のレガシーの一つに“大学スポーツマネジメントの枠組みを変えた”と言えるといい。

そのために、青山学院大学の体育会に期待したいことをAGUを愛する一人として自分の経験を基にお伝えしたい。
講演内容が答えではない、あくまで提案であり青学体育会の将来を考えるきっかけになればという思いを強調しておきたい

大学スポーツ振興の方針とは下記の通り *スポーツ庁で議論している内容
人材教育 - コミュニケーション能力 計画力 問題解決力 実効力(実行力)
大学ブランド向上 - 競争に勝つ姿を通し広くファン作り → AGU卒業生35万人では少ない
コミュニティ形成 - 地域住民との共存 施設開放 市民大学など

青山学院に対しては
大学経営トップ層の理解醸成・専門組織化・資金調達力向上・スポーツ教育充実に期待

AGU体育会が取り組むべき課題を、指定強化部6部と一般体育会約45部に区別し説明。

指定強化部6部(野球・ラグビー・駅伝・・・)は、
大学の広報的役割、勝つこと、大学教育学問とのマッチングが須で、最後にOB会との交流が大事。
スタッフの処遇改善、スポーツ支援課業務の改革、体育会本部年度予算見直し等の取り組み、チームカラーばらばらの見直し等が必要。

勝利 → 普及 → 資金強化の好循環を実現させるためには、部の理念を忘れてはいけないことに言及。
駅伝チームの例では、「感動は人からもらわず、人に与える側になれ」といった、
ぶれない行動指針を理念として共有している。

原監督は10年長期育成計画を説明し、当時の半田学長の理解の下、'04年に' AGU駅伝監督に就任。

ステージ1(上意下達型)ー4(支援型運営)に分けて中長期に渡り、強いチームを作りあげた手法を紹介。

成績・順位上昇は就任6年目からだったが、1-5年間で「規則正しい生活」を定着させたステージ1ー2の上に強いチームが成り立っていることを強調。

「規則正しい生活」という規律定着の有無が見極めポイントだったと解説。

駅伝チームは、朝の一言スピーチ、表現力を豊かに言葉を大切にする、ビジョンを語る、テーマを自ら考える、経費を考える、4ヶ月・1ヶ月先の練習日程に細かく分解、目標と結果シートをと通して、現状を認知させ自分を振り返らせる仕組みを繰り返す。

一般体育会各部(約45部 含むラクロス部)は、OB会との交流・論理的思考の訓練が必須で、指定強化部とは異なり、広報的役割、勝つこと等の優先順位は低い

AGU体育会で育成していきたい人材像は、AIで奪われる仕事を見せた後、モノコトをつくる(作り・創り)、考える、分析能力をもち人と接するサービスを考え抜く、人としっかりとコミュニケーションできる人物。

(OB達はどのようにチーム作りに参加するのか、の問いに)
駅伝チームのOBには後悔しない人生を歩んでほしい。そして、企業で出世してほしい。
ルールを作る側に回って、日本を良くしてほしい、と高い視点で回答。

<所感>

近視眼的な運動能力アップといったパフォーマンス向上だけではなく、原先生が強調された目標達成(ビジョン)のため自ら課題解決していく力を重視した人材育成の方向性は、AGULAX OB会でも参考にしたいポイント。

共有)7/4火 第3回AGUコーチズセッション 結果 (ラクロス部OB会長 温湯)

幹事会 各位
関口HC様 村上様

昨日、青山キャンパス17511にて開催されましたので共有します。
参加者は120名程度(OB・学生 両方)

【OB連合会 田坂副会長】'69年卒 馬術部OB

コーチズセッションは3年前より
指導者の側面支援のためOB連合会が企画し立ち上げ。
第1回の講師は、ラグビー部OB 岩淵氏(日本代表GM)

青学は、伝統的に「おっとり、のんびり」でスポーツへのスタンスが定まらない中で、大学内に学生生活部スポーツ支援課(以下学スポ)が
昨年10月に組織化されたため、今回から共催として発展させた。下期も開催するので参加してほしい

【学スポ 海野課長】

'16/10月発足、全4名。AGUの文武両道を高めるべく三木学長の後押しで組織化。
スポーツ庁や2020年オリパラへの貢献を見据え、組織化の目的をスポーツ振興とすべきか議論したが、
まず学生支援すべきとの理由で立ち上げ。
スポーツ強化指定部は全51部中5部(硬式野球・バスケ・バレー女子・ラグビー・陸上中長距離) 今後拡大も可能性あり
体育会学生総数17千人の学生主体である部の運営をサポートしたいと年間予算費目を下記の通りとし運営。

<年間予算費目>

学友会課外活動援助金	5050万円
学友会特別予算	900万円(東北学院定期away時)
学友会特別援助金	700万円
学友会応援鑑賞援助金	500万円
後援会学長予算特別援助金	1940万円 *強化指定部予算1260万円除く

青山スポーツは学内唯一の紙面新聞で今後も継続、HPでも発信強化していく

予算付与上、体育会各部には、各申請書(合宿届け等)と結果報告書の運用徹底を指導中も定期戦報告時に稚拙な報告があがり落胆することもあり質の低下を懸念も。
今後、予算ハンドブックを作成する意向あり

取り組み方針は 競技力向上と、スポーツ特待生100名程度の教育支援の2本柱。

今後の行方は学スポ課の方向性と意気込みの具体化と絞込み

* 他大学では学長の直下組織としてスポーツ振興強化センターとかあるそうです
強化指定部のあり方
スポーツ特待生の就活後支援

<所感>

学スポ課4名での活動内容は理解できましたが
繁忙時期の説明が全くなかったため、OB会としていつどこで接点をもつべきか、
注意深く聞きましたが判断できませんでした。個人的には納得感はあまり得ていません。

そもそも学生生活部ですし、当面は、現役チームからコミュニケーションをしてもらいたいと思います。
越智体育会本部長からのカレンダー情報をもとに、我々が学スポ課と接点をもつべきかどうか よく考えて行動をしたほうが良さそうです

但し、学生からすると、積極的に情報交換する組織であるのは間違いありませんので
学生にとっては礼儀や報告の仕方などを学ぶ良い機会になると思います

コーチズセッションそのものの機会は、試行錯誤で進めていくようですので
OB会として継続して参加を続けていきたいと思います。

【社会情報学研究科 佐藤教授(医師)】

学生向け講義内容の紹介
体育会学生 応援アプリ の紹介(費用は不明)

<所感>

現役学生向けのプレゼンでしたので、OB・OGは知っておくといよいよという程度で理解。
日本代表レベルで選手のコンディショニングマネジメントアプリでした